

一般会計決算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、令和3年9月1日に総務生活分科会を開催しました。

認定第1号 令和2年度総社市一般会計歳入歳出決算認定

～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、次の観点から可決すべきでないとの異議がありました。

～異議の内容～

備南競艇事業組合負担金について、行政が出資すべきではない。

～質疑～

問：雪舟生誕地公園のPR活動が必要だと思うが、今後どのように考えているか。

答：周知・集客のためのイベントはコロナ禍のためできていないが、マルシェやフリーマーケット等をしたいとの申出もある。地域とも話し合いながらイベント等を計画したい。また、雪舟サミット構成6自治体でガーデンツーリズム登録制度を活用し、「雪舟回廊」として登録している。雪舟ゆかりの地を巡るパンフレットなども設置し、市民や多くの方に知っていただき、親しんでいただける公園になるよう取り組んでいく。

問：外国籍の方から言語コミュニケーションのための多文化共生推進員の増員の要望はあるか。また、外国人防災リーダーの育成や、多言語音声翻訳機器等の活用はどうか。

答：市内の外国人はベトナム人が半数を占めており、7月からは多文化共生推進員としてベトナム語通訳の方を一人採用し、主に学校教育や福祉の現場などで活躍されている。多文化共生推進員3名で市内外国籍80%以上の方の言語に対応可能であり、支援をしている。また、外国人防災リーダー研修会を開催し、現在は9カ国34名の方がリーダー登録していて、今後も増やしていく。翻訳機器は7台使用し、新型コロナウイルス感染症対策室やハローワーク総社等に貸出して活用している。

問：個別施設計画策定委託について、どのようなものが出来上がるのか。また、今後はどう生かしていくのか。

答：公共施設等総合管理計画の中から83施設を対象に、劣化状況調査や修繕履歴等による施設評価を行い、各課の意向も踏まえて取りまとめたものである。今後は、この計画を活用し施設の修繕計画や長寿命化計画を定め、適切な施設管理を行っていく。

問：県立博物館を誘致する会はこういった活動をしているのか。

答：啓発事業がメインで、県立博物館に興味を持ってもらうための動画を作成し、YouTube等で発信をしている。また、吉備路再発見の講演会を開催予定である。現在の県立博

物館の耐震改修が終わり、耐用年数を迎える 2036 年に向けて、新施設の建設議論が始まる時に備えて、粘り強く活動を続けているところである。

問：長良交通公園の利用頻度を上げる方策はあるか。

答：コロナ禍ではあるが、感染症対策を図りながら、子どもが交通ルールを学ぶ場として利用されていくよう積極的に広報していきたい。また、安全に利用できるように信号機やアスファルトを修繕し、白線の引き直しなどを行っている。

問：企業版ふるさと納税の寄附事業者はどうか。また、個人のふるさと納税については、今後どのように考えているか。

答：企業版ふるさと納税は 4 事業者からいただいている。個人からの寄附金額は 5 億 5,700 万円余りで、前年より約 4,800 万円増額している。経費を除き、総社市民が他の自治体に行ったふるさと納税による減税分を差引くと約 2 億円の利益となっている。令和 3 年度に返礼品である米のお得度を上げたが、今後は新規の方が気軽にアクセスできるようにしたり、また、社会貢献をしたいという方に対しては、寄附金の市政活用を分かりやすく伝えるなどして、寄附者を増やしていきたい。